当財団へのご寄附・ご支援について

【 ご寄附・ご支援の方法 】

当財団へは、下記のような方法でご支援いただけます。
いただいた寄附金は、全額東北の子どもたちの支援のため、大切に活用させていただきます。

- 寄　附　銀行振込
- 寄　附　クレジットカード
- Yahoo! ネット募金
- ボランティア、物品・サービス提供

当財団への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、
寄附金控除が受けられます。詳しくはお問い合わせください。

一般寄附受付口座

本口座へのご寄附は、当財団が行う支援活動全般のために活用されます。

みずほ銀行 大手町営業部(普)3514117
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン)

まなべる基金使途指定寄附受付口座

本口座へのご寄附は、「まなべる基金」の奨学生のために活用されます。

みずほ銀行 大手町営業部(普)3514439
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン)

福島こども力基金使途指定寄附受付口座

本口座へのご寄附は、「福島こども力プロジェクト」として福島のこどもたちの様々な体験活動のために活用されます。

みずほ銀行 大手町営業部(普)3516292
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン)

その他の支援方法の詳細については
当財団のホームページをご覧ください。

http://minnade-ganbaro.jp/shien/

■Yahoo!ネット募金
http://donation.yahoo.co.jp/detail/4554001/index.html

ご寄附いただいた方
(敬称略・50音順)

近畿大学付属東広島高等学校　SMAP SHOP
ダイドードリンコ株式会社　第7回湘南国際マラソン実行委員会
その他、多くの方々からご寄附をいただいています。誠にありがとうございます。

団体概要
※2013年5月31日時点

名称:　公益財団法人東日本大震災復興支援財団
設立日:　2011年6月14日
所在地:　〒105-0021　東京都港区東新橋1-9-2　汐留住友ビル14階　TEL:03-6889-1560　FAX:03-6889-1568
人員構成:　役員8名(理事6名、監事2名)　評議員6名　職員10名

役員一覧

会　　長　孫　正義(ソフトバンク(株)代表取締役)
代表理事　立石　勝義
専務理事　荒井　優
理　　事　佐藤　大吾(一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン代表理事)
　　大橋　智哉(税理士法人山田&パートナーズ)
　　武田　慎一
　　青野　史寛(ソフトバンク(株)執行役員人事部長)
監　　事　君和田　和子(ソフトバンク(株)執行役員経理部長)
　　加藤　善孝(優成監査法人統括代表社員)

評議員　寺島　実郎((財)日本総合研究所理事長)
　　小宮山　宏((株)三菱総合研究所理事長)
　　村井　純(慶応義塾大学環境情報学部長)
　　中村　伊知哉(慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)
　　藤原　和博(東京学芸大学客員教授)
　　嶋　聡(ソフトバンク(株)社長室長)

みんなで がんばろう●日本
http://minnade-ganbaro.jp　Twitter : @ganbarojp　Facebook : http://www.facebook.com/ganbarojp

みんなで がんばろう●日本

2012年度 年次報告書 [2012年6月～2013年5月]

公益財団法人東日本大震災復興支援財団

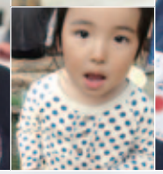
いくつもの困難を乗り越えて

――― 3年目を迎える被災地のこれから ―――

あの大震災から3年目――。被災地にも少しずつですが、明るい光が差し込みはじめています。ただ、未だに多くの課題を残していることも事実です。子どもたちにとって「これから本当に必要な支援とは何か」をあらためてみんなで考えなければならない時期に来ています。

ふみだす探検隊リフレッシュキャンプ

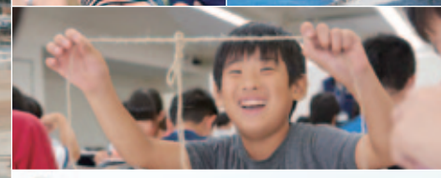
宮城県石巻市沿岸の様子



みやぎジュニアトップアスリートアカデミー

岩手県陸前高田市市内の様子

宮城県女川町沿岸の様子



【支援活動の概要と実績】(設立〜2013年5月末まで)

支援活動 01

学べるしあわせを みんなに

経済的な理由で進学・就学が困難になった高校生に返済不要の奨学金を給付。

支援総額 11.2億円　支援人数 2,007名

※第1期・2期の総額。今後の支援予定分含む。

▶まなべる基金

詳しくはP.07

支援活動 02

支援活動を バックアップ

東北の子どもたちを継続支援する団体の活動を支えるための助成プログラム。

支援総額 3.6億円　支援件数 229件

※第1期〜4期の総額。

▶子どもサポート基金

詳しくはP.11

支援活動 03

未来へふみだす 勇気をあと押し

福島の親子のために未来へふみだす勇気を応援するプロジェクト。

支援総額 5.9億円　支援人数 約17,000名(のべ)

▶「ふみだすふくしま」プロジェクト

詳しくはP.15

支援活動 04

スポーツを通じて 夢を応援

夢を持ってチャレンジする子どもたちを応援し、宮城の復興を支える人材を育成。

支援総額 0.9億円　支援人数 102名(小学4〜6年生)

※今後の支援予定分含む。

▶みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業

詳しくはP.21

支援活動 05

対話からはじまる 地域の復興

地域の住民が主役となって、対話を行い、そこで明らかになった課題を解決する取り組み。

支援総額 0.26億円　支援人数 約1,600名(のべ)

※今後の支援予定分含む。

▶芋煮会ワークショップ

詳しくはP.25

支援活動 06

話す・つながるを サポート

震災でご両親や保護者を亡くした子どもたちに携帯電話料金を月1万円まで支援。

支援総額 0.04億円　支援人数 36名

▶18歳まで携帯料金サポート

詳しくはP.28

※支援人数・件数は、2013年5月末までの人数・件数です。

この2年間で、私たちが取り組んだこと。

全支援総額合計 21.9億円　全支援人数合計 約20,745名(のべ)と229の団体

「ふみだすふくしま」プロジェクト／ふみだす探検隊 リフレッシュ・キャンプの様子
(岩手県八幡平市・安比高原にて。2013年7月14日撮影)

当財団の理念・ビジョン

理念

復興支援を通じて、
次の世代が幸せに暮らす社会の
創生に貢献する。

ビジョン

子ども達が夢と希望を育む
環境を実現する。

ごあいさつ

公益財団法人
東日本大震災復興支援財団
代表理事
立石 勝義

東日本大震災から丸2年が過ぎましたが未だ不便な暮らし、苦しい状況に置かれている被災者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

私どもの非力さを痛感させられる日々ではありますが、3年目に入り、「各方面からの支援による復興」から「自立による復興」への機運が伺われます。
そして多くの方が厳しい状況から、一歩一歩前進しようとする姿勢に、希望を感じています。

子どもたちは大人ほどの表現力は難しい。日頃友達と明るく騒ぎながらも、ある時「ふっと」何かを感じているのではないでしょうか。そんな子どもたちに少しでも元気に暮らしてもらうため、当財団は支援を続けてまいります。

企業・団体・個人の皆さまから「寄附をしたいが、生かして使って欲しい」と、当財団の支援活動の内容を確認するご連絡をいただいた上で、ご寄附をいただくケースが増えています。

多くの皆さまからのご支援に深く感謝申し上げます。引き続き被災地の皆さまの声を聞きながら、更に気を引き締めて活動してまいります。

これからも、変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年度活動概要

- 2011年3月 東日本大震災発生
- 2011年6月 一般財団法人 東日本大震災復興支援財団 設立
- 2011年7月 設立記者会見
- 2011年7月 公益財団法人認定
- 2012年6月 ふみだす探検隊2012夏 応募受付開始
- 2012年6月 子どもサポート基金 第3期公募開始
- 2012年7月 まなべる基金 第2期応募受付開始

- 2012年8月 ふみだす探検隊リフレッシュキャンプ 応募受付開始
- 2012年8月 伊達市内幼稚園・保育園外遊び支援
- 2012年8月 まなべる基金緊急支援奨学金 応募受付開始
- 2012年9月 南相馬市鹿島幼稚園 人工芝グラウンド導入支援
- 2012年9月 子どもサポート基金第3期助成先決定
- 2012年9月 ふみだす探検隊ちびっ子遠足隊 10月～11月期応募受付開始
- 2012年10月 ふみだす探検隊ちびっ子遠足隊 12月～1月期応募受付開始
- 2012年11月 ふみだす探検隊ちびっ子遠足隊 2月～3月期応募受付開始

- 2012年12月 子どもサポート基金第4期公募開始
- 2012年12月 まなべる基金第2期奨学生決定
- 2012年12月 みやぎ「夢・復興」 ジュニアスポーツパワーアップ事業開始

- 2013年1月 2012年中間報告書を 発行

- 2013年2月 平成25年ふみだす探検隊 リフレッシュキャンプ 応募受付開始
- 2013年2月 子どもサポート基金 第4期助成先決定
- 2013年3月 ふみだす探検隊 ちびっ子遠足隊 6月～7月期 応募受付開始

支援活動
01

学べるしあわせをみんなに。
高校生対象給付型奨学金
「まなべる基金」

学べるしあわせをみんなに

明日の航海士を夢見る高校1年生（国立小樽海上技術学校）

まなべる基金

経済的な理由で進学・就学が困難になった高校生に返済不要の奨学金を給付。

震災後、被災した学生向けにいくつかの奨学金制度が立ち上がりましたが、多くは遺児・孤児が対象でした。そこで当財団は、被災や失業による経済的な理由で進学・就学が困難になった高校生のために、返済不要の奨学金制度を設立。卒業まで最長4年間、最大72万円を支給しています。

2012年度 支援概要

▶支援者数
第2期：815名

▶支援対象期間
2013年4月～2017年3月（最長）
※卒業までの期間

▶支援総額
4.6億円（今後の支援予定分含む）

▶協力団体
GBパートナーズ

▶過去の実績
第1期：支援者数 1,198名（2013年5月時点）
※支援終了した生徒も含む
支援総額 6.6億円

▶今後の予定
被災各県市町村の教育関係者を含む現地の方々にお話を伺いながら、次期の実施を検討中です。

これまでに約2,000名の高校生を支援、2013年3月に266名が無事卒業しました

これまでに約2,000名に奨学金を給付し、2013年3月には第1期の奨学生のうち、266名が無事卒業、それぞれの新しい道を進むことになりました。卒業した奨学生からは、「支援いただいたことを忘れず、将来、支援ができる人間になりたい」「地元のためにできることをしたい」など、頼もしいメッセージをもらいました。

まなべる基金使途指定寄附について

2,000円×10人の方からのご支援で、高校生1人が1ヶ月高校へ通うことができます。

「まなべる基金使途指定寄附」へのご寄附は、「まなべる基金」の奨学生のために活用させていただきます。被災3県出身の高校生が学校へ通い、希望ある高校生活を送り、卒業を迎えられるよう、ご支援をお願いいたします。

まなべる基金使途指定寄附受付口座

みずほ銀行　大手町営業部（普）3514439
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
（コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン）

共に歩む

震災の影響で、かけがえのない3年間を失わせないために

まなべる基金を設立した理由は、震災の影響で環境が変わったことにより、経済的な理由で進学・就学が危ぶまれ、当たり前の高校生活を送ることができなくなる高校生が相当数発生することを危惧したためです。震災から2年目に入っても、そうした状況が大きく変わっていないことを受け、第2期への継続をしました。奨学金というきっかけで、高校生たちが今までに持ち得なかったような選択肢を持ってもらえたらと思っています。奨学生たちへは、3年間を大事に過ごし、支援を受けた、という気持ちを次の世代へ還元していって欲しいと思います。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 事業担当　及川 武宏

【まなべる基金 奨学生インタビュー】

私たちは、今、未来に向かって歩き始めて います。

まなべる基金の現役奨学生と、高校を卒業した奨学生の「今」をインタビューしました。学ぶことを決し てあきらめず、未来に向かって歩き出した2人の声をお聞きください。

物資不足に直面したあの日、航海士になることを決意

まなべる基金（第２期）奨学生

阿部 亮太さん
国立小樽海上技術学校 I年生
宮城県大崎市出身

人の心と心をつなぐ物流の仕事に憧れ

父のような漁師になりたい。幼い頃からそう思っていましたが、震災を経験し、同じ海の仕事でもコンテナ船やタンカーの航海士になりたいと考えるようになりました。きっかけは震災直後、物資不足に直面したことです。どの店に行っても生活用品、食糧が手に入らない。それまで何不自由なく暮らしてきた僕にとって衝撃的でした。そんな中、ありがたかったのが支援物資です。例えば飲料水、即席ラーメン、衣類などの一つひとつから、人々の温もりを感じました。被災者とご支援いただいている方々の心は確かにつながっている。そんな勇気をもらいました。人の心と心をつなぐ物流という仕事に、大きな魅力を感じたのです。

ご支援いただいている方々への感謝の気持ちが文武両道を実行する活力に

夢を叶えるため、この春、国立小樽海上技術学校へ入学しました。親元を離れての寮生活です。震災の影響で父の収入が減るなか、何かとお金のかかる寮生活にためらいも感じましたが、奨学金のおかげで、安心して勉強、部活に励んでいます。奨学金は、寮費以外の生活費、カッター部※の遠征費にあてるなど有意義に活用しています。ご支援いただいている方々の厚意に恩返ししたいという思いから、モットーは、勉強も部活も常に全力投球。その成果か、部活では3年生に交じってレギュラーに選ばれました。勉強も実技も、最近少しずつ成績があがっています。限られた時間と空間で文武両道を実行できているのは、支援いただいている方々に対する感謝の気持ちが大きな活力になっていると思います。卒業したら、世界の海を渡る航海士になり、東北を支えてくれたすべての人々に感謝の意を込めて、大切な物を届けたいです。

※カッター：「カッターボート」の略で、船舶に搭載されている手漕ぎの小型艇。タイムを競うレースでは、長さ9m、定員12名の艇を用いるのが一般的です

初めての救命講習。AEDや人工呼吸について教わりました

学校・寮の掃除当番は持ち回り。この日は寮の浴室を担当しました

放課後は海でカッター部の練習。体力勝負の競技です

母、祖母と同じ美容師になり地元の方々を笑顔にしたい

まなべる基金（第1期）奨学生（2013年3月に給付終了）

佐藤 緋名子さん
仙台理容美容専門学校 I年生
宮城県気仙沼市出身

苦しい時に見かけた地元の方々の笑顔に勇気

実家で母と祖母が美容室を営んでおり、幼い頃から美容師になることが夢でした。しかし震災で実家が損壊し、店は長期休業。さらに父が体調を崩して退職することになり、家計が苦しくなりました。将来に不安を感じていたそんな時、ボランティアで来た美容師の方々を避難所で見かけたんです。カットをすることで被災者の皆さんの笑顔を自然に引き出す光景を見て、「美容師って素敵な仕事だな」とあらためて憧れを強めました。また、ちょうどその頃、学校の先生から「まなべる基金」を紹介されました。申請したら合格のお知らせをいただき、目の前がパッと明るくなりました。奨学金を貯蓄すれば、美容専門学校の入学資金にできるからです。

がんばった分だけ上手になるという教訓を胸に

奨学金をいただくようになり、多くの人たちに支えられる幸せをより強く感じるようになりました。知らない人同士でもつながっていると思うと、とても心強く、人一倍がんばらなきゃという気持ちになりました。
今年4月、高校時代に貯めた奨学金で仙台理容美容専門学校に入学しました。支援いただいた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今は慣れない一人暮らしで大変ですが、勉強も家事も手を抜きたくありません。「何事もがんばった分だけ上手になる」という母の教えを信じているから。専門学校を卒業したら、東京の美容院に就職して技術を磨くつもりです。震災前は、そのまま東京で暮らす予定でしたが、今は、実家を継ごうと考えています。地元の方々を笑顔にし、喜んでもらえる美容師になりたいからです。それが、ご支援いただいた方々への恩返しになると思っています。

高校時代はバスケ部マネージャー。お世話好きです

ワインディング練習。迅速かつ正確な手さばきが必要です

先生の的確なレクチャーには参考にすべき点がいっぱい

支援活動
02

支援活動をバックアップ

子どもサポート基金

東北の子どもたちを継続支援する団体の活動を支えるための助成プログラム。

手づくり遊具で遊ぶ子どもたち（北上プレーパーク有志の会）

被災地では、政府や行政の手の届きにくい、さまざまなニーズに対応した支援を行う存在として、NPOやボランティア団体が大きな役割を果たしています。しかし、こうした団体の活動の多くは寄附金等によって支えられており、多くの団体にとって、安定的な活動資金の確保が大きな課題となっています。「子どもサポート基金」は、このような状況を少しでも解消できるよう創設されました。これまで4期にわたり、のべ200以上の団体に資金助成を行い、被災した子どもたちへの支援活動を支えています。

「子どもサポート基金」では、公的資金では支援が難しい、被災地の団体のスタートアップの活動も応援し、そのような団体の中には、活動の成果が評価され、のちに行政等の助成を受けて、活動規模を拡大したものもあります。このように、地域に必要とされる活動の立ち上げをサポートすることも、民間財団の役割と考えています。当財団では、現地の課題に寄り添って支援を続ける団体が継続的に活動できるよう、今後も助成を継続していきます。

2012年度 支援概要

▶支援者数
第3期：52団体　第4期：54団体

▶支援対象期間
第3期：2012年10月1日～2013年4月10日
第4期：2013年4月1日～9月30日

▶支援総額
第3期：9,760万円
第4期：7,466万円

▶協力団体
GBパートナーズ

▶過去の実績
第1期：助成件数 51件　支援総額 9,494万円
第2期：助成件数 72件　支援総額 9,674万円

▶今後の予定
2016年度までの実施を予定しています。

メディア掲載情報

釜石・農家レストラン営む女性、店の前に手作り公園
2012／06／23 河北新報朝刊

子どもサポート基金第3期の助成先「創作農家こすもす組合」の活動が河北新報に紹介されました。当財団は施設整備費、トイレ・水飲み場等の整備費用および公園整備のための人件費を助成いたしました。

釜石市甲子町で創作農家レストラン「こすもす」を営む緑井サエさん(67)が、レストラン前の畑に、手づくりの公園を整備した。東日本大震災で市内の公園の多くに仮設住宅が建ち、市民の憩いの場が減る中、「子どもたちや仮設住宅に入居する人たちが心穏やかに過ごせる場になれば」と、23日から一般に開放する。

釜石・農家レストラン営む女性

公園は、市西部の山あいを通る国道283号近くで、広さ約30メートル。流木のケヤキを使った滑り台やあずまや、築山、ヤナギのドームなどと自然を生かした遊びが特徴だ。地面には木のチップを敷き詰めた。

震災で大きな被害を免れたサエさんは昨年夏ごろ、夫で宮司のアさとるさん(66)と公園造りを構想。復興支援で釜石市を訪れたボランティアとの交流がきっかけとなり、多くの個人・団体の協力を得て、所有するコスモス畑を約半年かけて公園にした。

店の前に手作り公園
「仮設住民 憩う場に」
き開 よう放

持続可能な農業を基本に都市と農村、自然と人の暮らしの循環システムを築く「パーマカルチャー」のデザインを手掛ける本間フィル・キャッシュマンさん（神奈川県）がノウハウを提供した。

公園は今後も遊具を整備する予定。一般開放を前に22日夕、関係者や地域の人たちを招いたミニイベントを開き、公園の完成を祝った。

サエさんは「震災の被害が少ない市西部で、被災した人たちが心を癒せる場にもしたい。将来は食育や芸術のワークショップも企画したい」と話している。

開園時間は午前10時～午後5時。小さい子どもは保護者同伴で。

昨年完成した公園と緑井さん夫婦＝22日、釜石市甲子町

【助成団体インタビュー】

将来を担う子どもたちを支えるために、活動しています。

様々な現地の課題と向き合い、支援活動に取り組んでいる3団体の代表者から、詳しくお話しを伺いました。東北での活動状況を中心に、被災地の「今」をお伝えします。

自然の中で思い切り遊び、学ぶことで子どもたちは心身ともに成長する

北上プレーパーク有志の会 代表　武山 美佳さま　宮城県石巻市

近所の保育所に通う子どもたちも遊びに来ます

子どもたちが子どもらしく遊ぶ場所を確保するために

震災後、子どもたちの生活環境は激変しました。公園に仮設住宅が建ったり、小学校が被災して3校から1校に統合されたり。遠方からのバス通学で放課後の自由時間が減り、体力の低下や肥満まで見られるようになりました。親としては、まず、子どもたちの遊び環境をよくしてあげたい。できれば、自然のなかで友だちとたくさん遊ばせて、震災のストレスも軽減させてあげたい。そんな思いから、昨年6月、地域の保護者やボランティアの皆さんが中心となって、北上プレーパーク有志の会を設立しました。

遊具はすべて手づくり 材料や工具に助成金を活用

私たちが運営する「うらやまでプレーパーク」の遊び場は石巻市立北上小学校の裏山です。石巻市の協力を得て、山の一部を整備しました。放課後や土日になると子どもたちが自然と集まり、水を得た魚のように自由に遊び始めます。既製の遊具は一切ありません。子どもたちが自分で考えてロープやネットを張り、ベンチやおもちゃなどを手づくりします。これらの材料や工具を購入する費用として、子どもサポート基金の助成金を活用させていただいています。先日ハンモックやターザン滑車をつくりましたが、みんな目をキラキラさせていました。今度は滑り台をつくる予定で、いまどこに、どんな滑り台を造ろうか考えています。設立当初は、被災地で遊び場づくりを支援している団体に協力をいただき、運営や備品の手配などをお願いしていました。助成していただけたことで、自分たちでも備品を揃えることができ、継続して子どもたちが遊ぶ環境を提供できるようになりました。
今後も、子どもたちの目線を大切にしながら、さらに子どもたちを楽しませてあげたいです。

自主性を重視。最低限のルール以外、禁止事項はありません

普段あまり使わない工具でも、ここで使い方を学びます

自然の中で自由に思い切り体を動かしています

高校生の想いを後押しする講演会を開催

NPO法人北いわて未来ラボ
理事長　中平 均さま　岩手県久慈市

講演会「コトバノチカラ」は大きな反響を呼びました

【概要】久慈高校の卒業生が中心となり、平成24年6月に結成しました。避難所でイベントを開いたり、高校生を対象に講演会を開催したり、子どもたちに前向きな刺激を与える取り組みを行っています。

震災後、高校を訪問し先生方から話を伺ったところ、「地元に貢献したい」という高校生が増えていることが分かりました。こうした前向きな想いをサポートしたい。その一心で夢や生きざまを情熱的に語ってくれる講師を招き、4回の講演会を開催しました。高校生はその熱意に刺激を受けたようで、「将来は建築家となり復興の力になりたい」と語るなど、地域のために自分は何ができるかを真剣に考える姿が見られました。子どもたちが地元に誇りや夢を持って行動できるよう、今後も活動を続ける予定です。

急な環境変化による心の傷を予防する

NPO法人子ども家庭リソースセンター
理事　永田 陽子さま　東京都北区

7回のプログラムを通じて気持ちの表現を教わります

【概要】子どもの健やかな育成、子育て家庭支援を目指して平成14年に結成されたNPO法人です。心のケアに関する研究活動が盛んで、震災で生活環境が急変した子どもたちの心をサポートしています。

原発の影響で、地元福島県大熊町を離れ、会津若松市に移住している小学生をサポートしています。避難や移住という急な環境変化に直面した子どもたちは、ストレスや悩みをうまく表現できず、心に傷を負ってしまうことがあります。その予防として、気持ちの出し方を学び、少しずつストレスを発散するためのプログラムを実施しました。いただいた助成金は教材などの購入費に充てました。おかげでプログラムもスムーズに進み、自分の気持ちを素直に表現できるようになった子どもが増えたと感じています。

共に歩む

地域の人々や子どもたちに求められている活動をサポート

震災後、自らや家族を後回しにしてでも復旧・復興のために活動をする方々を目の当たりにし、こうした活動は社会で支えていくべきものだ、と強く実感したことが、この助成プログラムの形を作るきっかけでした。助成を行う中では、「地域の子どもたちの喜ぶ顔が見える活動」であるか、という点を重視しています。支援団体の活動により、単に元に戻るだけでなく、子どもたちにとってより良い教育や環境が実現されていくことを願っています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 事業担当　小田 礼子

支援活動
03

ふみだす
ふくしま

未来へふみだす勇気をあと押し

「ふみだすふくしま」プロジェクト

福島の親子のために
未来へふみだす勇気を応援するプロジェクト。

ブナ林散策で自然ウォッチング（岩手県八幡平市にて。2013年7月14日撮影）

**ふくしまで歩んでゆこうと決めた人　ほかの土地でふくしまを見守ろうと決めた人
それぞれの心の中にある、ふくしまへの想い。子どもたちへの想い。不安と希望。
降りかかる大きな困難にもめげず、顔を上げて未来へと
一歩ふみだす皆さんの勇気を応援する「ふみだすふくしま」プロジェクト。**

「ふみだすふくしま」プロジェクトを構成する5つのプログラム

ふみだす探検隊

外でのびのびと遊ぶことができない福島の子どもたちに向けて、屋外の活動を中心とした定期的な体験学習プログラムを実施。

詳しくはP.16

ふみだす未来の教室 in 南相馬

受け入れ環境が少ない発達障がいを持つ子どもたちの、被災地における十分な教育機会の確保のための電子教材を使った教育支援。

詳しくはP.19

ふみだす生活サポートセンター

福島や遠く離れた避難先で暮らす被災者の皆さまの悩みごとや困りごとを、気軽に相談できる生活相談窓口。 2012年度に終了

詳しくはP.20

一時転居支援 2012年度に終了

お子さまや妊婦のいる世帯を対象とした、県外への一時転居費用を助成する制度。

ふみだす集中ゼミ in 会津若松 2011年度に終了

学習機会が少ない中高生を対象とした、進学を支援するための無料学習サポート。

子ども向け体験学習プログラム

ふみだす探検隊

自然遊びを満喫しました（岩手県八幡平市・安比高原にて。2013年7月14日撮影）

福島では、放射線の影響で外でのびのびと遊ぶことができない環境に置かれている子どもたちが少なくありません。当財団は、比較的放射線量の低い地域での外遊びやキャンプなどの体験学習プログラムを定期的に提供し、子どもたちが自然の中で思い切り遊んで、心身の健やかな成長を促す活動を支援しています。

2012年度 支援概要

【ふみだす探検隊2012夏】

▶**支援者数** 219名（のべ）
▶**支援対象期間** 2012年7月～8月
▶**支援総額** 631万円
▶**協力団体**
近畿日本ツーリスト株式会社、
特定非営利活動法人
遠野山・里・暮らしネットワーク、
NPO法人フロンティア南相馬、
特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

【ふみだす探検隊2012秋冬】

▶**支援者数** 2,186名
▶**支援対象期間** 2012年10月～2013年3月
▶**支援総額** 3,357万円
▶**協力団体**
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、
特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

【ふみだす探検隊2013】

※2013年7月より福島こども力プロジェクトとして実施

▶**支援者数** 3,360名（予定）
▶**支援対象期間** 2013年4月～2014年3月
▶**支援総額** 5,500万円
▶**協力団体**
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、
特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

▶**過去の実績**
【冬プログラム】支援者数：136名
支援総額：484万円
【春プログラム】支援者数：110名
支援総額：349万円

▶**今後の予定**
体験学習を通じて、子どもたちの成長を後押しし、未来の福島を支える人材の育成を支援するプロジェクトを実施します。
詳しくはP.29をご覧ください。

ふみだす探検隊 リフレッシュキャンプ

**リフレッシュキャンプは、福島県に住む小学生を対象にした体験学習プログラムです。
週末を利用してキャンプを実施し、さまざまな体験活動を行っています。**

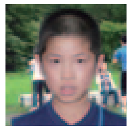
鳥の仲間を呼ぶ「バードコール」を作成。野鳥の生態も学びました

ブナ林を散策。自然の息吹が肌で感じられる神秘的な空間に興味津々

2013 7.13〜15 国立岩手山青少年交流の家

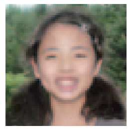
7月13日から15日、国立岩手山青少年交流の家で宿泊体験を行いました。穏やかな陽光が心地よく降り注ぐ、天気に恵まれた3日間。子どもたちは、ブナ林の散策、キャンプファイヤーなどの活動を通じて、自然の生態を直に学んだり、仲間と協力し合うことの大切さを感じたりと、有意義な時間を過ごしました。

参加者の声 のびのび、めいっぱい自然のなかで遊べて大満足



太田 武志くん
伊達市
4年生

キャンプに参加したのは、ボクが住む月舘という町をみんなに知ってほしかったからです。自然がいっぱいで、野生の猪や熊も出るし、お米も野菜もおいしいです。地震のあと引っ越した友だちもいるけど、ボクは地元を離れたくありません。今回、新しい友だちに月舘の名前を知ってもらい、うれしいです。



長沢 千里さん
太玉村
5年生

地震のあと、家でも学校でも「外で遊ぶ時間は30分まで」と言われ、ずっと息苦しい思いをしてきました。本当は外で遊ぶことが大好きなのに。その分キャンプではおいしい空気を思い切り吸って、いっぱい遊びました。新しい友だちとも出会えて、「また会おうね」と約束できたし、大満足です。

星 歌音さん
鏡石町
6年生

学校のお便りでキャンプを知りました。支援してくれた方々の心遣いで、素敵なキャンプを過ごせるなんて夢みたいです。とにかく思い切り楽しもうという気持ちで参加しました。6年生なので下級生のお世話もできればいいと思っていましたが、本当に礼儀正しい子が多くてびっくり。いい仲間ができました。

子どもたちのため、よりいっそうの充実を図る

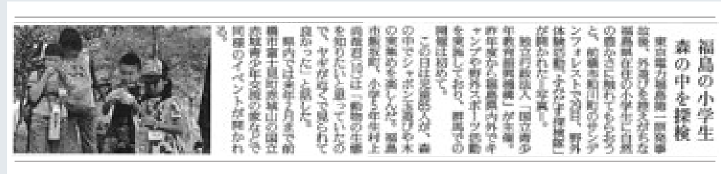
国立青少年教育振興機構　教育事業部　平田 秀一さま

2011年夏にスタートした「リフレッシュキャンプ」は、これまでに140回の開催、約12,000人の参加者を数えます。今後も、福島の子どもたちが、思いっきり体を動かし、様々な体験活動ができる場を提供できるよう、よりいっそうの充実を図ります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

メディア掲載情報

福島の小学生 森の中を探検＝群馬
2013／06／30 東京読売新聞 朝刊 36ページ

2013年6月29日に国立赤城青少年交流の家にて実施された「ふみだす探検隊リフレッシュキャンプ」の内容が、読売東京に掲載されました。子どもたちが自然体験活動を行う様子が取り上げられています。



福島の小学生
森の中を探検

共に歩む

「保養」から「学び・育ち」の場へと活動が変化

震災後、放射能の影響で外で遊べない子どもたちを何とかしたい、という気持ちから本活動はスタートしました。当初、ストレス発散や保養目的だった活動も、自然体験活動の場へと徐々に変化してきました。今後も、行政や支援団体と協力しながら、子どもたちにとって、よりよい学びや育ちの場を提供していけたらと思っています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 事業担当　高森 雅和

ふみだす探検隊 ちびっ子遠足隊

**ちびっ子遠足隊は、福島県の未就学児を対象とした、日帰りの体験学習型保育プログラムです。
子どもたちが外で元気に遊ぶ様子をご紹介します。**

かわいい手作りろうそくができました

たくさん遊んでお休みタイム。お疲れ様でした

ホッペが真っ赤になるまで遊びます

かくれんぼ。でもすぐ見つかってしまいました

太陽の光をたっぷりあびてにっこり

暑い夏は冷たいプールで。気持ち良さそうです

共に歩む

子どもたちには心身ともに大きな成長を期待

この活動は、屋外活動を通じて、体力の低下防止だけではなく、子どもたちが他者との協力やコミュニケーションを学ぶことも目的としています。一方的な支援をよしとせず、常に地元の方々、運営団体と活動の方向性を協議し、未来に向かって希望を持てる子どもたちへと成長してもらえるよう、人間関係の構築に重きを置いて活動しています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 事業担当　五十嵐 隆三

ITを使った学習サポート

ふみだす未来の教室 in 南相馬

教室のみんなでパチリ。明るく、元気いっぱいです

放課後は宿題をやる時間。先生に教わるだけでなく、 時には教え合います

宿題が終わったらタブレットで追加学習。電子教材での学びは理解が深まります

発達障がいの子どもたちの中には、周囲とのコミュニケーションが難しく、人の感情や場の空気を察することが苦手な子どもが多く存在します。震災直後そうした事情で、避難先での生活が困難になり地元に帰ってきた子どもやその家族が多くいた一方、発達障がいの子どもを受け入れる環境は充分に整っておらず、安心して生活することが難しい状況が続いていました。当財団では、こうした子どもたちのために、電子教材を活用した学習支援、対人関係のトレーニングを行う施設を支援することで、子どもたちの生活環境全体の改善を目指しています。

2012年度 支援概要

▶支援者数
1,869名

▶支援対象期間
2012年1月～随時

▶支援総額
700万円

▶過去の実績
2011年度：支援者数：1,226名（のべ）
支援総額：300万円

▶協力団体
運営：特定非営利活動法人トイボックス
後援：南相馬市教育委員会

▶今後の予定
2013年度以降も、より多くの子どもたちを支援できるよう、継続的に支援していきます。

開設から一年、子どもたちは大きく成長

特定非営利活動法人　トイボックス
代表理事　白井 智子さま

環境が激変し、混乱した子どもたち。生育環境に悩む保護者の皆さん。震災直後から現地の状況に即した支援を続けてこられた財団の皆さんと、ＳＯＳを受け大阪から現地入りした私たち・・・。たくさんの出会いが重なってこの場所が生まれました。開設から一年、安心できる場所を得たことで子どもたちは大きく成長しています。皆さまのご支援のおかげです。本当にありがとうございます。

共に歩む

子どもたちが安心して学べる環境作りを

発達障がいの子どもたちを支える環境の必要性を地域の方々から伺ったことをきっかけに支援を行っています。IT教材を使った学習支援を含め、のびのびと成長できる環境づくりを行い、地域の未来を担う子どもたちをこれからも支援していきたいと思います。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
事業担当　池田 昌人

参加者の声

参加児童のご両親からの声をお聞きしました

「息子は今まで自分の思いや考えを言葉にして伝えることが苦手でしたが、「ふみだす未来の教室」に通うようになって“何とか話そう”という姿が出てきたように思います。まだまだ言葉は足りないのですが、気持ちが伝わってくるようになりました。」
(小５／男子保護者)

「わからないことが積み重なってしまって娘も私も困り果てていましたが、生活習慣が身について学習にも取り組むようになってきました。」
(小６／女子保護者)

ふみだす生活サポートセンター

「福島や避難先で暮らす中で、不安や悩みはあるけど誰に相談したらよいか分からない…」そんな被災者の皆さんの声にお応えし、困りごとや悩みごとを相談できる場として設置いたしました。

2012年度 支援概要

▶支援者数 137名

▶支援対象期間 2011年12月～2012年10月

▶支援総額 454万円

▶協力団体 一般社団法人ふくしま連携復興センター

▶過去の実績 2011年度：支援者数 181名（のべ） 支援総額 664万円

支援活動
04

スポーツを通じて夢を応援

みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業

夢を持ってチャレンジする子どもたちを応援し、
宮城の復興を支える人材を育成。

的の中心、ただ一点のみを狙う真剣な眼差し（アーチェリーの実習にて）

復興の原動力として、長きにわたって活躍できる人材を育成することは、被災県全体にとって非常に重要です。この取り組みは、宮城県の小学生を対象として、トップアスリートを育成するとともに宮城県の子どもたち全体の体力向上を目指しています。小学校4〜6年生を対象としてトップアスリートを目指す育成プログラムを実施する「みやぎジュニアトップアスリートアカデミー」と、運動能力補強プログラムを行うことで、宮城県の子どもたち全体の体力向上を目指す「みやぎ子ども体力向上事業（仮）」を行います。スポーツを通じ、復興を支える心身ともにたくましい人材を育てるためのプログラムです。

2012年度 支援概要

▶支援者数
102名
（小学4〜6年生）

▶支援対象期間
2013年4月〜

▶支援総額
8,800万円
（今後の支援予定分含む）

▶主催
みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業実行委員会

▶共催
宮城県教育委員会、公益財団法人宮城県体育協会

▶協力団体
仙台大学、宮城教育大学

▶今後の予定
各協力団体と協議しながらプログラム運営を進めます。

子どもたちの「夢」を応援して、宮城県の「夢」にしたい

みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業実行委員会 会長
宮城県教育庁スポーツ健康課 課長　松坂 孝さま

東日本大震災で日本全体に暗いムードが漂う中、2012年のロンドンオリンピックでは、宮城県ゆかりの選手が活躍してくれたことが県民全体に明るい話題を投げかけました。そこで、スポーツを通じての復興を見据え、宮城県の小学生を対象に、体力の向上や、アスリートを目指すきっかけづくりを目的とした本事業を立ち上げたのです。子どもたちには、スポーツを通じて努力や忍耐力を身につけ、達成感や成就感を味わうことによって心身ともに成長してもらうことを期待しています。第1回目アカデミーの反響は大きく、新聞やテレビ等で取り上げていただきましたことからも、どれほど期待が込められているかがおわかりいただけると思います。本事業は宮城県の「夢」そのものです。将来、子どもたちの中から世界へ羽ばたくトップアスリートを輩出することができたなら、宮城県全体に大きな「夢」を与える希望となり、それは間違いなく復興の原動力となるのですから。

| みやぎジュニアトップアスリートアカデミー　これまでの主な活動内容 |

2013 4.21

夢への扉が開く開講式

2次選考を通過した102名を、アカデミー生として認定する開講式。当日は文部科学省、復興庁をはじめ、様々な団体の方々も来賓として臨席。認定証の交付では、子どもたちは一人ひとり呼ばれ、元気よく挨拶ができていました。

松坂会長が各学年の代表に認定証を授与

グリップの握り方を教えるオレグ・マツェイチュク氏

リリース後のキレイなフォロースルー

相手の動きをしっかり見てアタックを狙う

2013 5.18-19

第1回アカデミー　「スタートキャンプ」

一泊二日の合同キャンプを開催しました。1日目は主に冒険ゲームといったコミュニケーションを重視するプログラムをこなし、2日目は本格的なスポーツトレーニングを体験。子どもたちはすぐ仲間と打ち解け、協力しながら、真剣にプログラムへ取り組んだ2日間となりました。

当財団ウェブサイトで、当日の様子を動画で配信しています！

http://minnade-ganbaro.jp/

スポーツの歴史を振り返る講義時間

2013 6.15

第2回アカデミー　「相手を知る・自分を知る／体幹の重要性を学ぶ」

オリンピック競技を通じたプログラムとして、4・5年生はフェンシングを通じて“相手を知り”、“自分を知った”上で、相手と行う駆け引きを、6年生はアーチェリーを通じて運動競技の基本である体幹の重要性について学びました。初めて目にする本格的な競技道具を前に、子どもたちも興味津々。講師として、ロンドンオリンピックのフェンシングで銀メダリストに輝いた宮城県出身の千田健太選手をはじめ、アーチェリーの穂刈美奈子氏、柔道の田辺陽子氏と、オリンピアンを含む素晴らしい講師の方々に来ていただき、熱心に指導いただきました。子どもたちも、アスリートの頂点であるオリンピアンから直接学べる機会に目を輝かせながら練習に取り組んでいました。

審判役を務めるフェンシング銀メダリスト千田選手

アーチェリー講師の穂刈氏から直々のアドバイス

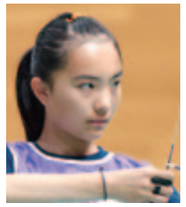
参加者の声

未来のトップアスリート候補生

アカデミー生　麦谷祐介さん　仙台市 小学5年生

フェンシングの動きは難しかったけれど、オリンピックの競技を体験できたのは嬉しかったです。学校の皆にも習ったことを教えてあげたいと思いました。将来はスポーツ選手を目指して頑張ります。

アカデミー生　小菅優菜さん　岩沼市 小学6年生



アーチェリーの体験をして気づいたことは、良い姿勢でまっすぐ的を狙うとうまく当たるということです。バレーボールをやっているので、アタックする姿勢などで活かせそうだと思いました。

メディア掲載情報

五輪選手目指し児童が基本学ぶ／宮城・利府町／将来の五輪代表を狙える子ども

2013／05／20 河北新報朝刊

みやぎジュニアトップアスリートアカデミーの第1回目の様子が河北新報に紹介されました。トップアスリートとして成長するための第一歩を踏み出した子どもたちの様子を取材いただいています。

実行委員会からの声

私たちが子どもたちを全力でサポート

心も支えるケアを

実行委員会事務局
4年生担当 黒田七恵さま

アカデミーへの応募数の多さに、私も改めて頑張らなくては、と身の引き締まる想いです。専門的な技術のことだけでなく、細やかなケアで子どもたちを生活面からも支えていきたいです。

子どもの成長をあと押し

実行委員会事務局
5年生担当 村橋綾子さま

測定会のとき、子どもたちが本当に一生懸命走りきっている姿を見て感動しました。アカデミーを通じて、それぞれが望む人物像に近づけるよう、一緒に成長できたらと思っています。

未来での活躍に向けて

実行委員会事務局
6年生担当 戸田亜依さま

アカデミーは様々な競技を体験できるチャンスです。子どもたちにはこれを機にいろんな競技に触れてもらい、その中から夢中になれるものを見つけていってほしいです。

共に歩む

世代を超えて語り継がれる経験を

単にスポーツが上達するだけでなく、人間形成を含めた教育を通じ、こうした経験を次の世代に伝えられる人材に成長していって欲しいと考えています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団 事業担当
及川 武宏

支援活動
05

対話からはじまる地域の復興

ワークショップにて。真剣に話し合う地域の方々

芋煮会ワークショップ

地域を想う住民がみんなで集まり、地域の課題についてとことん話し合うワークショップ。対話を通じて明らかになった課題の中で、当財団として取り組めるものを、ひとつでも多く支援することを目的としています。

2012年度支援概要

▶参加者数
約560名（のべ）

▶支援総額
※個別事案により異なります（詳しくはP.26〜27）。

▶開催場所
福島県、岩手県、山形県、新潟県、北海道、京都府各市町村

▶今後の予定
被災各地の要望や状況の変化に応じ、継続実施を検討しています。

「芋煮会」とは

河原で人々が集まり、みんなで芋煮※を食べる東北地方の風物詩。私たちは、そんな震災前は当たり前だった光景を取り戻すため、復興への想いを持った人々が集まり、復興への対話をする場所として、この取り組みを「芋煮会ワークショップ」と名付けました。

※サトイモを煮込んだ東北の郷土料理。味付けは地域によって様々。

地域の皆さまのご協力と共に、芋煮会ワークショップから実を結んだ支援の一部をご紹介します。

園庭への人工芝導入支援

［福島県 南相馬市 鹿島幼稚園］

南相馬市では震災後、全ての公立幼稚園、小・中学校の校庭の土を入れ替えましたが、土の質が非常に軽少で、強風や少しの運動で大量の砂塵が舞い上がり、その飛散した砂を吸い込む不安の声がありました。そういった声を受け、砂が飛散せず、運動がしやすい人工芝の導入を支援しました。

2012年度支援概要

▶支援者数　約100名（鹿島幼稚園園児）
▶支援総額　882万円
▶協力団体　福島県南相馬市、株式会社住ゴム産業
▶事業の進展　本支援を受け、南相馬市が市予算を取り付け、市内すべての私立幼稚園・保育所の人工・天然芝化が決定しました。

敷設された人工芝で思いきり体を動かす園児たち

いわき市「未来会議 in いわき」への支援

［福島県 いわき市］

芋煮会ワークショップに参加したいわき市民の方から「未来を担う子どもたちのために、こうした対話の場を自分たちで長きに渡り実施し、地域の課題解決につなげたい」という声がありました。こうした取り組みを継続的に実施できる環境づくりを支援しています。

2012年度支援概要

▶参加者数　255名（のべ）
▶支援総額　45万円
▶協力団体　運営：いわき未来会議事務局、田坂逸朗氏
▶支援期間　2013年1月〜8月
▶今後の予定　いわき市民によるいわき市民のための継続した対話の場として、今後30年間の自立的な継続を見据えた活動を目指していきます。

「未来会議 in いわき」の様子。高校生も参加して“いわきの未来”を考えます

保育園等への砂場や遊具への支援

［福島県 伊達市内の保育園・幼稚園23園］

伊達市の幼稚園の園長先生から「園庭の表土除去と砂場の砂の入れ替えを行ったことにより、放射線の値は低くなりました。ですが、1年間利用しないでいたことから、その後の影響を不安に思う保護者の方々の声により、子どもたちの外遊びがなかなか再開できない」というお話を受けました。子どもたちと保護者の不安を取り除くため、伊達市内の幼稚園・保育園のうち、希望のあった園を対象に、砂場の砂の入れ替えと、遊具のサビ落とし・塗装を支援しました。

1年7ヶ月ぶりに砂場で遊ぶ園児たち

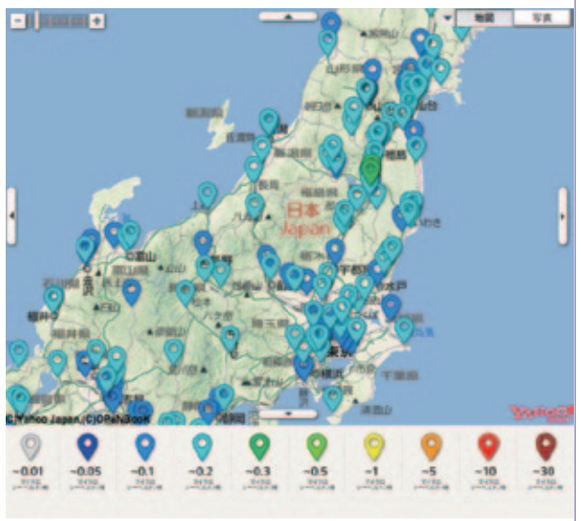
2012年度支援概要

- ▶支援者数　1,192名
- ▶支援総額　1,482万円
- ▶協力団体　伊達市教育委員会、伊達市商工会、保原町商工会

全国の放射線量の見える化マップ

［当財団ウェブサイトにて公開中］

福島県内でワークショップを実施する中、各地にて、「全国のリアルタイムの放射線量が、ひと目で見て分かるようなものが必要」というご意見を多く聞きました。放射線見える化マップは、日本全国の各地で計測された放射線の値を、それぞれの値に応じて色付けし、視覚的に放射線量が分かるようにしている取り組みです。



全国の放射線量を、色分けして分かりやすく表示

2012年度支援概要

- ▶支援総額　93万円
- ▶公開URL　http://minnade-ganbaro.jp/houshasen/
- ▶今後の予定　中長期に渡っての継続的な運用を予定しています。

支援活動 06

話す・つながるをサポート

18歳まで携帯料金サポート

実は5人で撮るのは初めてという木幡さんご一家

震災でご両親や保護者を亡くした子どもたちにとって、身近な人々と話す・つながるための携帯電話は大切なコミュニケーションツール。当財団では、こうした子どもたちを含むご家族の経済的負担を軽減するため携帯料金を支援しています。18歳未満の子どもたちを対象に、月々の携帯電話・PHS（電話会社問わず）の料金を月々1万円までサポートします。

2012年度支援概要

- ▶支援者数　36名
- ▶支援対象期間　2011年8月～随時
- ▶支援総額　309万円
- ▶協力団体　あしなが育英会
- ▶今後の予定　随時支援の申込受付を実施しています。

保護者の方の声　あたたかいご支援に感謝

木幡 修也さん
千代さん
宮城県石巻市

現在、保護者として3人の孫と暮らしています。震災後、義援金を始め、世界中の方々からご支援をいただきましたが、いただいたご支援は全て、子どもたちの将来のための貯蓄にしています。このサポートにより、3人の孫に携帯電話を持たせることができ、大変感謝しております。ありがとうございます。

共に歩む

心と心のつながりも大切に

支援をする側と受ける側という立場をこえ、様々な環境のもとで生活する子どもたちや保護者の皆さまと携帯電話の使い方や、日々の生活のこと、部活動のこともお話します。
そこから子どもたちの成長を見守ることも活動の一つとしています。

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
事業担当　田村 優子

個別の寄附活動について

当財団では、東北の復興活動に関わる団体の様々な活動に寄附を行っています。

福島市学童クラブ連絡協議会
協議会に所属する学童クラブが行う子ども向けの保養プログラムへの支援。

日本学校合奏コンクール委員会
「日本学校合奏コンクール2012 全国大会グランドコンテスト in 郡山」への支援。

福島県自主避難・母子避難（新潟市自治連絡協議会）
避難者交流会クローバー 「新潟ー福島 東日本大震災 避難者交流会」への支援。

天栄村観光地活性化協議会
福島県の子どもたちが参加する「スポーツ雪合戦東日本大会」への支援。

株式会社アスコエパートナーズ
復旧復興支援ナビ制度への支援。

復興支援サッカーキャラバン実行委員会
ベガルタ仙台が行うサッカー教室キャラバンへの支援。

今後の活動について

被災地の子どもたちにとって「本当に必要な支援」とは何か。
私たちは今も、その答えを見つけるために模索し続けています。
ただ、刻一刻と変化する被災地のニーズを汲み取り、私たちの活動も
新しい方向性を交えながら、一歩一歩前へ進んでいきます。
子どもたちや、その家族、そして地域の皆さまと一緒に。

NEW

“こどもの力”で未来を支える

福島こども力プロジェクト

様々な体験活動を通じ、
未来の福島を支えるこどもの成長を支援。

「福島こども力プロジェクト」は、こどもたちの学びと育ちを、自然体験やスポーツ、アート、国際交流、科学などの幅広い分野での体験活動を通じて支援し、未来の福島を支える人材を育成していく活動です。

【福島こども力会議】
福島のこどもたち、保護者の方々、NPO・団体・国・自治体とともに、福島の「こども力」を伸ばすプログラムについて考える会議を開催します。

福島こども力基金使途指定寄附について

「福島こども力基金」へのご寄附は、「福島こども力プロジェクト」として福島のこどもたちの様々な体験活動のために活用させていただきます。皆さまのご支援をお願いいたします。

福島こども力基金
使途指定寄附受付口座

みずほ銀行　大手町営業部（普）3516292
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
（コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフッコウシエンザイダン）

2013年度も継続予定の活動

以下の活動は現地でのニーズが引き続き高いことから、2013年度も継続する予定です。

支援団体向け助成
子どもサポート基金

ITを使った学習サポート
ふみだす未来の教室 in 南相馬

話す・つながるをサポート
18歳まで携帯料金サポート

私たちは「みんなでがんばろう日本」をスローガンに、被災地の子どもたちとその家族を応援するため、
皆さまからのあたたかいご支援や寄附を通じて、今後もさまざまな支援活動を行っていきます。

2012年度　財務報告

正味財産増減計算書

平成24年6月1日から平成25年5月31日まで　（単位：円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	650,792	466,323	184,469
受取利息	650,792	466,323	184,469
受取寄付金	782,215,830	982,038,078	△ 199,822,248
受取寄付金	782,215,830	982,038,078	△ 199,822,248
雑収益	6,104	0	6,104
受取利息	6,104	0	6,104
経常収益計	782,872,726	982,504,401	△ 199,631,675
(2) 経常費用			
事業費	734,366,622	848,004,401	△ 113,637,779
給料手当	13,982,082	9,442,614	4,539,468
旅費交通費	19,163,362	10,332,455	8,830,907
業務委託費	15,491,321	51,848,000	△ 36,356,679
賃借料	16,703,604	13,084,538	3,619,066
支払助成金・支払寄附金	643,712,063	737,156,037	△ 93,443,974
まなべる基金			
第1期	275,936,000	47,792,000	228,144,000
第2期	32,530,000	0	32,530,000
ふみだすふくしま			
一時転居支援（第1期）	0	328,301,465	△ 328,301,465
一時転居支援（第2期）	319,796	129,481,240	△ 129,161,444
ふみだす探検隊	46,536,874	8,331,690	38,205,184
ふみだす集中ゼミ in 会津若松	0	2,399,888	△ 2,399,888
ふみだす未来の教室 in 南相馬	7,000,000	3,000,000	4,000,000
子どもサポート基金			
第1期	0	93,121,155	△ 93,121,155
第2期	0	96,540,000	△ 96,540,000
第3期	97,600,000	0	97,600,000
第4期	74,660,000	0	74,660,000
18歳まで携帯料金サポート	3,088,925	1,018,599	2,070,326
地域芋煮会	25,598,933	0	25,598,933
みやぎ「夢・復興」ジュニアスポーツパワーアップ事業	58,000,000	0	58,000,000
その他寄附	22,441,535	27,170,000	△ 4,728,465
その他の事業費	25,314,190	26,140,757	△ 826,567
管理費	39,263,337	97,304,138	△ 58,040,801
給料手当	10,053,875	14,221,343	△ 4,167,468
委託労務費	0	6,388,633	△ 6,388,633
採用費	0	4,944,240	△ 4,944,240
業務委託費	2,058,766	11,043,680	△ 8,984,914
通信運搬費	3,233,195	0	3,233,195
広告宣伝費	0	35,766,180	△ 35,766,180
減価償却費	2,355,477	1,937,824	417,653
賃借料	4,042,512	0	4,042,512
設備管理費	3,935,297	0	3,935,297
支払報酬	4,108,650	0	4,108,650
その他の管理費	9,475,565	23,002,238	△ 13,526,673
経常費用計	773,629,959	945,308,539	△ 171,678,580
評価損益等調整前当期経常増減額	9,242,767	37,195,862	△ 27,953,095
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	9,242,767	37,195,862	△ 27,953,095
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	3,762,500	0	3,762,500
経常外費用計	3,762,500	0	3,762,500
当期経常外増減額	△ 3,762,500	0	△ 3,762,500
当期一般正味財産増減額	5,480,267	37,195,862	△ 31,715,595
一般正味財産期首残高	37,422,243	226,381	37,195,862
一般正味財産期末残高	42,902,510	37,422,243	5,480,267
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	115,515,307	4,027,572,840	△ 3,912,057,533
受取寄付金	115,515,307	4,027,572,840	△ 3,912,057,533
一般正味財産への振替額	△ 656,800,502	△710,014,675	53,214,173
一般正味財産への振替額	△ 656,800,502	△710,014,675	53,214,173
当期指定正味財産増減額	△ 541,285,195	3,317,558,165	△ 3,858,843,360
指定正味財産期首残高	3,317,558,165	0	3,317,558,165
指定正味財産期末残高	2,776,272,970	3,317,558,165	△ 541,285,195
Ⅲ　正味財産期末残高	2,819,175,480	3,354,980,408	△ 535,804,928

※「ふみだすふくしま、一時転居支援（第1期）」は前年度にて支援が終了しております。
※「ふみだすふくしま、ふみだす集中ゼミ in 会津若松」は前年度にて支援が終了しております。
※「子どもサポート基金」第1期・第2期は前年度にて支援が終了しております。
※当財団は有限責任監査法人トーマツの会計監査を受けております。
※各事業の支払予定総額については、各事業のページ（P7～P28）をご参照下さい。